

〔芸術学部 芸術学科〕

総合領域
イラストレーション領域
美術領域
情報デザイン領域
空間デザイン領域
地域実践領域



携帯・スマートフォンの方は
こちらのQRコードから
アクセスしてください。

〔美術領域 制作メンバー〕

デザイン:佐藤大介(sato design./印刷クラス卒業生)
写真:澤田幸(表紙)、増田好郎(p.07、09、11)
編集:齊村朝子
印刷:大伴社
発行:成安造形大学 入学広報センター
発行日:2021年4月1日
〒520-0248 滋賀県大津市仰木の里東 4-3-1
Tel: 077 574 2119 Fax: 077 574 2120
E-mail: nyushi@seian.ac.jp URL: www.seian.ac.jp

本書からの無断転載を禁じます。
また掲載内容は、2021年3月現在のものであり、一部変更される場合があります。
なお、最新情報については本Webサイトをご覧ください。

OPEN CAMPUS 2021

1st 4/18 (日) 2nd 6/6 (日) 3rd 7/25 (日) 4th 8/29 (日) 5th 10/10 (日)

〔ACCESS〕

京都から20分	----- JR湖西線普通 -----	JR おと と温泉 駅
大阪から46分	----- JR京都線新快速・JR湖西線普通 -----	
神戸から65分	----- JR神戸線新快速・JR京都線新快速・JR湖西線普通 -----	
駅前からは無料のスクールバスで約3分		

【 】

成安造形大学

美術領域

日本画コース / 洋画コース / 現代アートコース

FINE ARTS DEPARTMENT

JAPANESE-STYLE PAINTING COURSE / PAINTING COURSE / CONTEMPORARY ART COURSE

成安造形大学
大学案内2022

SEIAN UNIVERSITY OF
ART AND DESIGN
GUIDE BOOK 2022





制作スペースが広い！

芸術大学の中でも随一の広さを誇る制作環境。天井も高く、大きさや素材の制約を気にすることなく作品づくりに向き合うことができます。



自分の世界をつくる場所

美術領域で学んで得た感性や技術を活かし、多くの卒業生がさまざまな分野で活躍しています。制作を繰り返し、自分だけの世界をつくっていきましょう。

表現には、自由と広さが必要だ！

広く自由な環境から、自分だけの表現が生まれる。

美術領域という名前から、どんな学びを想像するだろうか。

「美術」の定義はいろいろあり、その捉え方も人それぞれであるように、ここで学べる領域は自由で、そして広い。「描く」、「つくる」、「考える」。この3つを軸に学びながら、恵まれた制作環境の中で広い視野を身につけ、自分にしかできない表現と出会う、わくわくする日々が待っている。

みんなアートを楽しんでる！

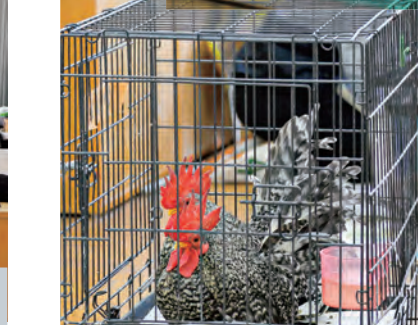
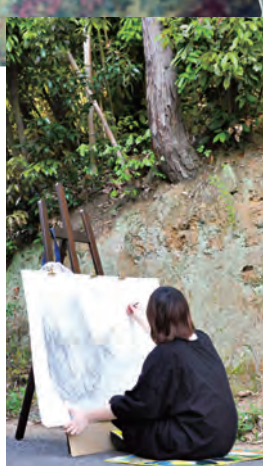
成安造形大学はコースや領域を自由に横断し、周りの人を巻き込みながらアートを全力で楽しめる場所。一人ひとりの考え方が個性です。アートに正解はありません。

“つくりたい！”を全力サポート

美術領域では少人数制を採用し、一人ひとりの表現に合った技術を習得することが可能。学生と先生の距離が近いので、制作に悩んでもすぐにアドバイスを仰ぐことができます。

自分の表現がきっと見つかる

1年次は3つのコースの授業を総合的に学びます。自分は何がやりたいのか、何に向いているのか。今はわからなくても、その問いにじっくりと向き合える環境がここにはあります。



美術領域 学びの流れ

美術領域では1年次に「描くこと」と「つくること」を基礎からしっかり学び、2年次より日本画コース・洋画コース・現代アートコースの3つから一つのコースを選択します。
アトリエのような個人ブース、少人数制のマンツーマン指導といった充実した制作環境の中で、思いっきり作品制作に取り組んでください。
さらに作品をつくるだけでなく、「なぜつくるのか」「何を伝えたいのか」を考えることで、幅広い世界との関わりと多様な価値観を学びます。

1年次

ものづくりの基礎を学び造形力を養う

描く 〈すべての基礎となる視る力・描く力〉

素描・絵画基礎



日本画基礎



油彩画基礎



つくる 〈施設を活用し造形経験を積む〉

立体造形基礎



素材研究



ラボの活用

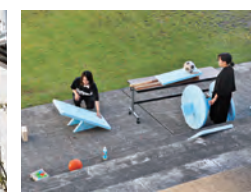


考える 〈柔軟なアイデアで新しいものを創造する〉

現代アート基礎



グループワーク



2・3年次

専門的な技術や知識を身につけ、自分ならではのテーマを発見する

日本画コース

岩絵具や膠（にかわ）などの素材、そして動植物や風景といった様々な自然と向き合うことで、自分自身と対話をする。



素材・技法研究



模写

動物



作家研究

人物



テーマ制作

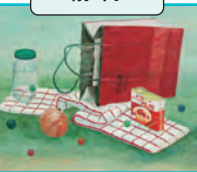


写生

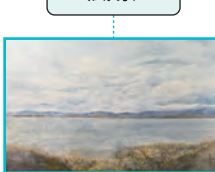


植物

静物



風景



洋画コース

「視ること」と「描くこと」から出発し、自由で独創的な表現を獲得する。自分と社会の関係を、絵画を起点に見つめ直す。



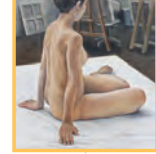
素材・技法研究



ドローイング



作家研究



カマイユ

人体



自主制作

展開

プランニング



古典技法

油彩画

グリザユ

静物

テンペラ

現代アートコース

絵画や彫刻といった既存の枠組みにとらわれず、自分ならではの新しい表現を自由に探求し、挑戦する。



現代アート研究

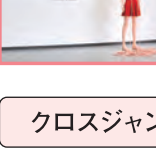
素材研究

作家研究

写真



single-use



平面

映像

パフォーマンス



クロスジャンル

自主制作

ポートフォリオ

個展



共通授業

領域全体で取り組む横断的で実践的な学び

【古美術研究】滋賀や京都の古美術に現地で触れる



【ゲスト講演会・講評会】多様な分野の専門家を招く特別な授業

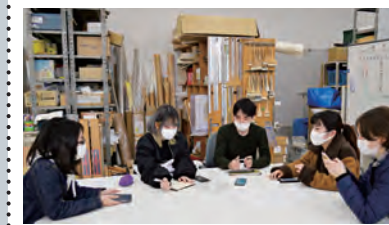


【研究と発表】主体的にリサーチし、発見を共有する



グループ展

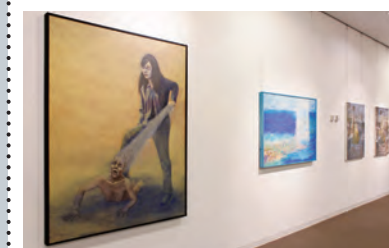
3年間の成果を展示し卒業研究へとつなげる



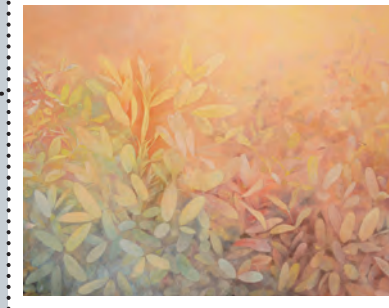
展示会自体を自分たちで企画する



DM作成から展示設置まで自分たちで行う



学外ギャラリーでの展示風景



里見友梨絵〈暗々(こうこう)〉麻紙・岩絵具



新田優貴〈畑〉キャンバス・油彩



中筋みなみ〈止まらない進まない〉ミクストメディア



4年次

自分の表現とテーマを研究・追求する卒業研究



岡市朱莉〈夏想う色〉高知麻紙・水干絵具・岩絵具



粟生紗成〈コミコマ〉綿布・ジェッソ・油彩



谷真緒〈CROSS she/touch〉ミクストメディア

卒業

専門分野から一般職まで幅広い分野で活躍

- ・アーティスト ・イラストレーター ・造形作家
- ・工芸作家 ・アートディレクター
- ・アートコーディネーター ・学芸員
- ・グラフィックデザイナー ・Webデザイナー
- ・ディスプレイデザイナー ・キャラクターデザイナー
- ・アニメーター ・映像作家 ・舞台美術
- ・絵本作家 ・漫画家 ・編集者
- ・保存修復師 ・美術科教員 ・福祉士
- ・企画・営業・販売・その他一般職

日本画コース

Japanese-Style Painting Course

岩絵具、膠(にかわ)、和紙、金銀箔など日本独自の画材や伝統的な技法・画法を使いこなすことで生まれる豊かな表現が日本画の魅力。日本画コースでは、写生から本画制作までのプロセスや日本画独自の画材の扱い方について初歩から学んだのち、石を砕いた絵具づくり、古典絵画の模写、美術館や寺社巡り、そして滋賀県という恵まれた自然環境の中での風景写生など、歴史、素材、技法から様々なアプローチで日本画を研究します。植物や動物、人、風景などの自然とじっくり向き合うことで、自由で個性的な絵画世界を創造する力を育みます。

作品



- 1 井上蒼惟《終日》高知麻紙・岩絵具・水干絵具
- 2 若吉李恵《鯨がいる街》麻紙・岩絵具
- 3 柳瀬七海《暮しのカンテンター》鳥の子紙・水干絵具・岩絵具
- 4 千坂尚義《沙羅は雪》民芸紙・墨・水干絵具
- 5 今岡一穂《暮の東伝説 二度の子別れ》雲肌麻紙・墨・水干絵具・岩絵具・鉛筆・金泥
- 6 竹村花菜《かえる》高知麻紙・水干絵具・岩絵具・銀箔
- 7 内田真子《群》高知麻紙・墨・水干絵具・岩絵具
- 8 渡邊愛《おとせ入水》麻紙・墨・胡粉・水干絵具・岩絵具・金泥・色鉛筆
- 9 橋爪千夏《きき》雲肌麻紙・水干絵具・岩絵具
- 10 小林みのり《深谷》高知麻紙・水干絵具・岩絵具・銀箔・アルミ箔

1	2	3
4	5	
7	8	
	9	
10		

制作の場

日本画コースのアトリエは一人一人に十分な制作スペースが確保され、100号以上の大きな作品も床に寝かせて制作することができます。また、大学周辺の環境は豊かな自然や琵琶湖の眺望など、制作のための画題に溢れています。滋賀県には寺社仏閣など歴史的な遺産も数多く存在し、伝統的表現の研究対象には事欠きません。古典から現代まで多くの作品を鑑賞し、恵まれた環境の中で自分の表現を探究することができます。



授業風景

2年次日本画実習

2年次では写生を重視した樹木制作にはじまり、静物・動物画制作を行います。下絵や草稿から実際の作品制作までのプロセスを体験するなかで、日本画の画材について、基本的な知識や扱い方を身につけます。



支持体研究(絹本による制作)

日本画の材料は1000年以上続いている伝統的な素材。なかでも絹は重要な材料の1つで、絹目を利用した裏彩色などさまざまな表現が可能です。専門的な画材に触れることで、日本画への理解をさらに深めることができます。

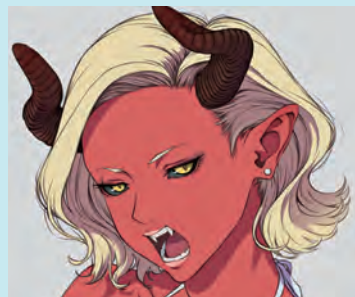


SELECTED TOOLS

岩絵具は鉱石を砕いた粒子状の絵具で、接着剤である膠液と混ぜて使います。1つの鉱石からは大きさの違うさまざまな粒子の岩絵具ができます。天然の鉱石を砕いてつくる天然の岩絵具は、焼いて炭化させることで暗い色に変化し、自分好みの色味をつくることが可能です。



SELECTED INTERVIEW



紺野大樹
アニメーター
山形県立長井高等学校卒業

2011年 成安造形大学美術領域
日本画クラス卒業
2012年 シャフト入社
2017年 フリーランスとして活動をスタート

Q1 日本画クラス(現:日本画コース)では、どのようなことを学びましたか?
日本画材の強さや質感などの魅力、平面的な空間の捉え方などの造形感覚も学びました。

Q2 授業や制作、また大学生活で印象に残っている出来事を教えてください。
3年次にとったイラストレーションクラスの授業。頭蓋骨のデッサンをしたのですが、そこでちゃんとデッサンというものを理解することができたように思います。

Q3 現在所属している会社と仕事内容を教えてください。
現在はどこにも所属せず、フリーランスです。仕事内容は、主に原画の作成など。最近は一人ED(コンテ・演出・作画・背景・仕上げ)をやったりもしています。

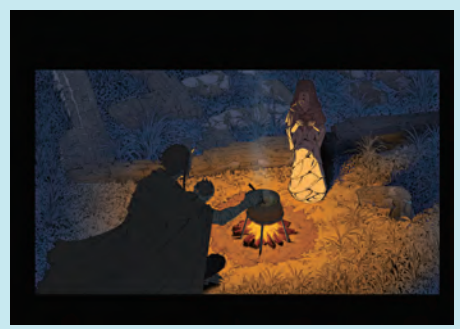
Q4 作品制作と就職活動を経験して感じたことは?
何も考えていないと何も作れない、と今では思います。でも、続けていれば少しずつ考えられるようになってきます。(アニメ業界に入ることは厳密には就活ではない気がしますが)就職活動で言えば、最初に入る会社というのは、意外と自分の思想や性質を形成するのに影響があるようです。かといって、それを狙って会社を選ぶことも不可能なように思えるので、それは運命みたいなものなのかなあ。

Konno Taiki

Q5 これから芸術大学を目指す受験生にメッセージをお願いします。
これから絵の勉強を本格的に始める人たちにとって、美大受験は全く違う価値観を獲得していく行為なのではないかと思いますが、振り返ると私はそれが楽しかったのも、皆さんもぜひ楽しんでください。



©特撮消防隊動画広報課



©SK.DP/S.Y

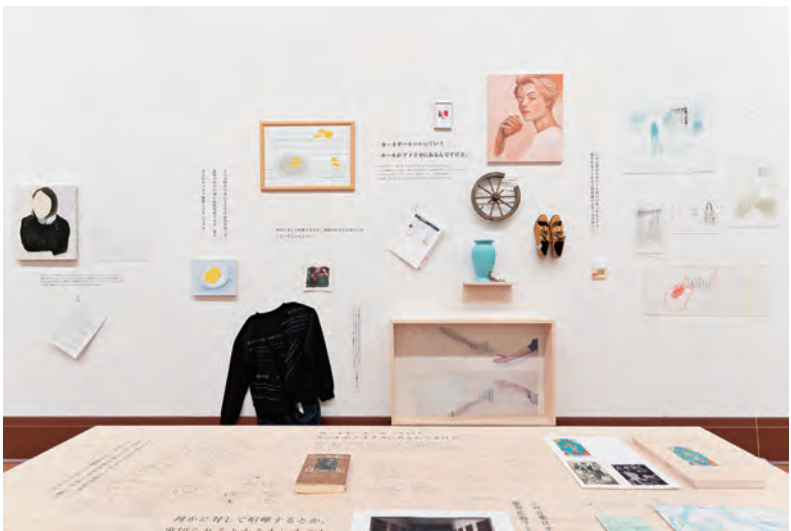
上《炎災ノ消防隊》下《約束のネバーランド Season 2》
コンテ・演出・作画・背景・仕上げを担当したEDの本編完成素材

洋画コース

Painting Course

洋画コースではテンペラ画をはじめ、グリザイユ技法などの古典的な西洋絵画のプロセスを学び、技法や材料に関する知識をしっかり身につけることから始めます。その上で版画表現や写真表現など、さまざまな新しい方法にも挑戦し、歴史を重ねた伝統的な技術と現在進行系で生まれる絵画技術を同時に学ぶことができます。まずは描くことから出発し、「なぜ描くのか」「なにを表現したいのか」を考えます。そして、自分なりのテーマを発見・探求することを何よりも大切にし、自分だけの表現方法を獲得していく喜びが本コースの魅力です。

作品



- 1 四宮弘賀〈しがみつく〉キャンバス・油彩
- 2 上井彩希〈今日のことは忘れて〉キャンバス・油彩
- 3 ミヤザキノノ〈obscure form#1〉綿布・油彩
- 4 宮地珠音〈拡張〉キャンバス・アクリルガッシュ
- 5 中筋みなみ〈テンペラ画習作〉板・綿布・卵黄テンペラ
- 6 長谷川まどか〈ねこパンチ3秒前〉パネル・色鉛筆
- 7 うえだあやみ〈空かもしれない#1〉キャンバス・油彩
- 8 木村水紀〈Loitering Portrait #case Y.G〉ミクストメディア
- 9 坂下葉緒〈きつと4b〉キャンバス・油彩
- 10 西井香織〈冬〉板・シルクスクリーン

1	2
3	4
5	6
7	8
9	10

制作の場

高い天井から入る自然光が、モチーフの魅力を引き立てる大きなアトリエ。洋画コースの2年次には、静物画やモデルを観察して描く人物油彩画など、様々な課題に応じて自由にアトリエを構成します。3年次以降は一人一人にブースが与えられ、より自由に、より大きな作品に挑戦することも可能。個人のブースに150号キャンバスを立て掛けて制作できる芸術大学随一の広々としたアトリエで、思いっきり自分の表現を拡張させてください。



授業風景

古典技法(卵黄テンペラによる板絵)

コース選択後、まずはテンペラ画など西洋絵画の古典的な制作方法を学ぶところからはじめます。油彩画の前に基礎を確認しながら進めるので、経験者は基礎に戻って、未経験者は安心して絵画の成り立ちを考察できます。



ドローイング演習

絵画技術の向上も大切ですが、自由な素材と自由な発想で自分ならではの技法を見つけていくことが何よりも重要です。様々な画材を使用したドローイングを通じて、自分のテーマに合った技法を見つけていきます。



SELECTED TOOLS

2年次から本格的に学ぶ油絵具は、多くの学生が使い続けるもの。特有の光沢感と透明感を持つこの画材は、さまざまな油と絵具を組み合わせで塗り重ねることで、豊かに表情を変化させます。乾性油、揮発性油、樹脂など、集めた油と絵具の数だけ新たな技法が作り出せる魅力的な画材です。



SELECTED INTERVIEW



木村瑞季
洋画コース・4年生(2021年卒業)
京都府立亀岡高等学校卒業

2021年 株式会社メンバーズ 入社

Q1 なぜ洋画コースを選んだのですか？

小さい頃から絵が好きで、中でも油絵が好きでした。高校から美術系のクラスで油絵を描いていたこともあり、大学でも続けたいと考えたことが理由です。1年生の時に美術領域の各コースの授業を体験できるのですが、実際に受けてみて一番しっくりきたのはやっぱり洋画だったので、その時に改めて決断することができました。

Q2 現在、洋画コースではどんなことを学んでいますか？

油絵に限らず、版画や立体物なども制作しています。作品づくりでは、テーマを設定しつつ、そのためにどういった形態や素材が必要かを考えながらその都度選択するという進め方が多いです。ものづくりのプロセスを重点的に学んでいると言えるかもしれません。時には写真と版画と立体物を混合させたり、人にインタビューをしたり、ここで学べることは本当に様々です。

Q3 授業や制作、また大学生活で印象に残った出来事を教えてください。

金属で指輪やバングル、スプーンなどを作ったことです。ラボの方に教えてもらったので授業ではないのですが(笑)、普段お店で買うものを自分で作ることができるのは楽しいです。成安造形大学では領域に関係なくラボを使用できるので、自分次第で本当に色々ことができます。さらにその彫金技術を制作に活用することで、作品の幅を広げることもつながりました。

Kimura Mizuki

Q4 作品制作において気をつけていることはありますか？

忍耐強く作業することです。また、作品の形態にはこだわらないようにしています。初めてのことは毎回苦労しますし、技術が追いつかないこともあります。めげずに何度もトライしています。技術的にわからないことは、洋画の先生はもちろん、ラボのスタッフさんや別のコースの先生に話を聞いたり、自分から情報収集をするようにもしています。

Q5 卒業後の進路について教えてください。

Web系の会社に就職予定です。未経験のエンジニア職で内定をいただきました。洋画コースでIT系は珍しいかもしれませんが、これまでの制作活動で培ってきた地道な作業に対する忍耐力や継続力を活かせると考え、今はプログラミングやデジタルマーケティングを勉強しています。大学でいろんな技術を学んできたので、デジタルのもののづくりにどのように携われるのか不安もありますが、楽しみです。



現代アートコース

Contemporary Art Course

現代アートコースでは絵画や彫刻といった既存の枠組みに留まらない、自分ならではの表現を探究します。2年次は現代アートの歴史や作家を研究する授業にはじまり、木工や鉄工、レーザーカッターや3Dプリンタなど多様な素材・ツールを活用した立体表現に挑戦。また、写真・映像などからも表現の幅を広げます。3年次では、学生主体で展覧会を開催するなど実践的な活動を通じて“場”の特殊性から発想する「サイトスペシフィック・アート」や、“身体”を使った「パフォーマンス・アート」に挑戦します。4年次は卒業研究として各自が自由にテーマを設定し、自分ならではの表現を社会に発信します。

作品



- 1 片岡周介 個展「SWAY」展示風景
- 2 ナカスジミナミ 個展「ムラサキカ」展示風景
- 3 吉良加奈子〈在るべき姿〉インスタレーション
- 4 宮崎こころ〈証樹〉ミクストメディア
- 5 菊池和晃〈愛の神様〉ミクストメディア・パフォーマンス
- 6 松山舞音 個展「グラウンド・エフェクト」展示風景
- 7 廣野点美〈身体 of 戯れ、あるいは完璧な他人として〉パフォーマンス
- 8 藤田楓 個展「Lighting」展示風景
- 9 ゆりかき〈私は武士! なりたい自分であるために〉私・鑑
- 10 走出渉子〈かたちをのこして〉蓄光シート・ペンライト

1	2	3
	4	
5	6	7
8	9	
	10	

制作の場

現代アートコースの制作環境は、教室だけに限りません。大きな立体作品をつくりたいれば屋外やラボなど学内の様々な施設を活用することができ、パフォーマンスやインスタレーションは学内外のギャラリーで表現したり、アート・プロジェクトでは地域に飛び出して活動したり。やりたいことに応じて、制作の場を拡張させることが可能です。このような環境は、美術領域の「みんなでみんなを育てよう」という考えによって支えられています。



授業風景

立体基礎(木工実習)

立体基礎では木工に特化した造形ラボ、金属加工に特化した鉄エラボ、3Dプリンタやレーザーカッターに特化した施設(fabco)など、あらゆる素材と学内の様々な施設を活用し、自分ならではの表現を目指します。



平面基礎(撮影実習)

現代アートコースの平面基礎は描くだけでなく、撮影スタジオを使ったデジタル一眼レフカメラの撮影技術習得、オリジナルフォトブックの制作、パフォーマンスのドキュメント映像制作などにも取り組みます。



SELECTED TOOLS

現代アートコースでは、金属や木材などを使用した彫刻的な表現から、映像や写真、パフォーマンスまで、幅広い表現に挑戦できます。自分の表現に合った素材をコントロールするために、電動工具からデジタル機器、身近にある多様な道具や素材まで活用して、自分なりの表現方法を獲得します。



SELECTED INTERVIEW



菊池和晃
美術作家
京都府立洛東高等学校卒業

- 1993年 京都市生まれ
2016年 成安造形大学美術領域 現代アートコース卒業
2018年 京都市立芸術大学大学院 美術研究科絵画専攻 構想設計クラス修了
金属の精密加工会社に就職
2020年 Kyoto Art for Tomorrow 2020 - 京都府新鋭選抜展 - 優秀賞受賞
ニューミュージーション #3. 菊池和晃・黒川岳・柳瀬安里 京都芸術センター(京都)など 関西を中心に作品を発表

Q1 現代アートコースではどのようなことを学びましたか？
美術史の流れ、写真や彫刻などの幅広い表現技法はもちろん、アーティストとして如何に社会に対峙していくのかを考える時間の方が多かった気がします。単なる自己表現や文化としてではなく、アートが生きる為の技法であること。私たちの生活に生々しく絡んだ、ある種、所帯じみたものであるということを学ぶことができる空気がありました。

Q2 授業や制作、大学生活で印象に残っていることは？
一番印象に残っているのは卒業制作の作品です。100点を取ることができず、今後自分が生きていこうとしている世界で、このままでは通用しないことを実感し、悔しさや焦りを抱いて大学院に進みました。しかしその焦りが原動力に変わることを、後に知ることができました。最後だからと甘やかさず、厳しく評価してもらえたことに今は感謝しています。

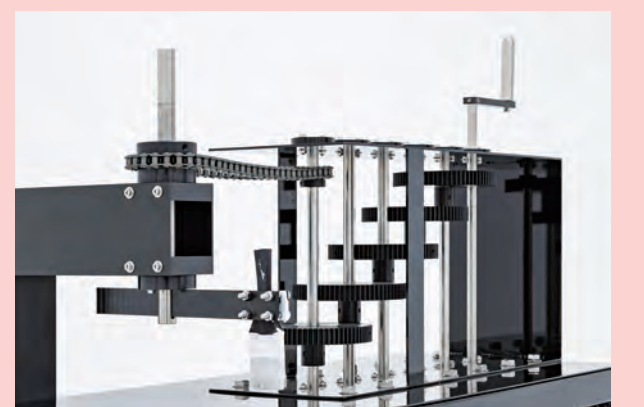
Q3 現在どのような作品を制作していますか？
金属の精密加工技術を活かした作品を作っています。例えば、100回スクワットすることで一枚の絵画が完成する装置や、ハンドルを6250回回して1つの円を描くマシンなど、肉体を酷使することで稼働する装置を使い、美術史を参照したイメージを生産しています。

Q4 仕事と作家活動の両立について
どのように感じていますか？
決して簡単ではなく、正直に言えばある程度は面の皮に厚みが必要です。日々葛藤し、さまざまな問題も起きますが、何の抵抗も生まれな

Kikuchi Kazuaki

い場にいることはアーティストにとっては毒だと思っているので、そう思えばこれはこれで楽しいです。

Q5 これから芸術大学を目指す受験生に
メッセージをお願いします。
大学生活は楽しいし、楽しくないしと制作を続けられます。卒業後も楽しめるようにぜひ4年間を有効活用してください。当時の僕は“喫煙所の主”と呼ばれるほど何もしていなかったんで、今とても後悔しています。そうならないよう、学内施設は使えるだけ使い、技術を習得し、制作場所のあたりを付けておくといいかもしれません。本も今のうちにたくさん読んでおくといいいと思います。



「円を描く1ーマシン」 | 2020年
アルミニウム・鉄・ステンレス | 400×1000×1000mm | 撮影：表恒匡

卒業生が活躍する場所

美術領域で学んだことを活かし、様々な道で活躍する卒業生たち。
4年間の学びの先に、きっと自分らしい働き方を見つけられるはずです。

自分の表現の追求を生業にする

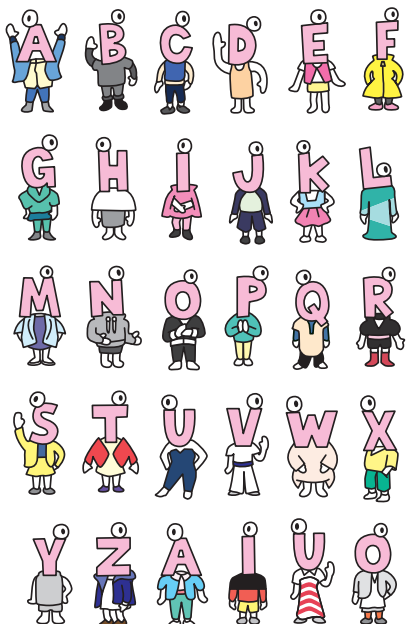
作家・フリーランス



《罪と罰 Crime and Punishment》

■井上裕加里／美術家

東アジアの近現代に潜在する歴史認識、文化観の差異や関係性、地域性をテーマに映像作品を制作している。2019年・2020年Kyoto Art for Tomorrow―京都府新鋭選抜展―「ゲーテ・インスティテュート・ヴィラ鴨川国際交流賞」受賞



《CHOJIN Font ver. 2019》

■西武アキラ／実験漫画家

マンガ・絵画・アニメーション・タイポグラフィなどメディアや分野を横断して、国内外で活動。近年は「国際タイポグラフィ・ビエンナーレ Typojanchi 2019」(ソウル)に参加。マンガグループ「CHOJIN CLUB」を主催。



gallery Artislong展示風景

■はしもとともこ／ぬいぐるみ作家

奈良芸術短期大学クラフトコース非常勤講師、株式会社「光スタジオ」取締役。ぬいぐるみ作品「tagui」をデパートやギャラリーにて発表するほか、雑誌のデザイン等を行う。ONE AND ONLY KYOTO. A-style KYOTOはかにて作品取り扱い中。



《うちの師匠はしっばがない》(講談社)good!アフタヌーンにて連載中

■TNSK(ディー・エヌ・エスケー)

漫画家・イラストレーター

漫画「うちの師匠はしっばがない」(講談社)、「あいどるスマッシュ」(Cygames)、「Eight」ジャケット(八王子P/トイズファクトリー)、アニメ「6HP」イメージボード(村上隆監督)、ゲーム「フライングクロニクル」キャラクターデザイン(セガ)などを手がける。



■WALNUT

イラストレーター・アーティスト

東京都に在住。ノルウェー・南アフリカ・スペインなど世界各国のミュージシャンのグッズデザインを担当するほか様々なファッションブランドのイベントに起用されるなどジャンルを問わず幅広く活動中。



《あぐり》撮影・林直

■岩名泰岳／画家

大学卒業後、デュッセルドルフ芸術大学(ドイツ)で絵画を学ぶ。帰国後は故郷の三重県伊賀市旧島ヶ原村を拠点に、過疎化が進む村落を題材にした絵画の制作や地域の人々との文化活動<家ノ木>を展開する。「第19回三重県文化新人賞」受賞。



《黒に金》

■今岡一穂／日本画家

出身地である大阪府和泉市の伝承をライフワークとして描く。人物画を中心に、女性像に自身や身近な女性たちを重ね、「いま」を見つめる。



《The aluminum garden -structural studies of plants-》

■三家俊彦／アーティスト

2004年彫刻クラス卒業。2009年からベルリンに活動拠点を移す。アルミを用いた彫刻作品で、2019年にスイスの時計会社オーデマピゲとのプロジェクトを行う。2020年はトニー・クラッグや、アイ・ウエイウェイ、ダン・グラハム等と共に野外彫刻を展示している。



《快楽の薄膜》撮影・上野則宏

■藤井俊治／画家

ティアラ、鏡、ヴェールなどのイメージを箔、雲母、油絵の具等の多様な画材を用いて制作。2009年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了。2018年「VOCA展2018」VOCA奨励賞受賞。2019年「快楽の薄膜」が「美しい顔(北条裕子著、講談社)」表紙に。現在は本学教員として基礎科目を担当。



《Blue flower》

■山本雄教／美術作家

硬貨を和紙にフロタージュしたものや、ブルーシートに金箔を貼ったものなど、日本画で学んだ技法や素材と、様々な対象や思考を組み合わせながら作品を制作。2020年「京都日本画新展」奨励賞、2014年「TERRADA ART AWARD」優秀賞(T-Art gallery/東京)受賞。

学んだ技術と表現力を社会で活かす

クリエイティブ職



■箭木 康一郎／有限会社墨仙堂

有限会社墨仙堂にて東洋書画(文化財)の保存修復・表装に携わる。日本画 2002年卒



■田代 詩奈／株式会社つむら工芸

株式会社つむら工芸でオペラやミュージカルの美術制作に携わる。日本画 2016年卒



■野村 沙羅／ボノス株式会社

誰でも手軽簡単にできるにゃんこ育成スマホゲーム「にゃんこ大戦争」にアートディレクターとして携わる。洋画 2011年卒

☑ 主な就職先 | クリエイティブ職

【ゲーム・アニメ・イラストレーション系】

株式会社京都アニメーション、株式会社シャフト、ボノス株式会社、株式会社カプコン、株式会社ディンブス、株式会社MAPPAなど

【グラフィックデザイン・Webデザイン・クリエイティブ系】

辰日電子工業株式会社、株式会社メンバーズ、株式会社仁々々、有限会社ウエスト、株式会社ライデンフィルム、株式会社カラフル、株式会社ケイ・ウノ、株式会社ジークレストなど

【保存修復・舞台制作など】

有限会社墨仙堂、株式会社つむら工芸、京都たつた舞台株式会社、有限会社川面美術研究所、有限会社島津漆彩色工房など

芸術に関わる文化・表現を広く伝える

文化施設・美術団体／NPO



■横井 悠

ボーダレス・アートミュージアム NO-MA 学芸員

構想表現(現・現代アート) 2009年卒

社会福祉法人グロー(LOW)法人本部

企画事業部に勤務。

☑ 主な就職先 | 文化施設・美術団体／NPO

公益財団法人京都市芸術文化協会、
ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、
京都市社会福祉協議会など

Q1 大学で学んだこと、また大学生活で印象に残っている出来事は？

彫刻や写真、アニメーション制作など、クラスを気軽に越境でき、先輩や先生、卒業生の制作・搬入の手伝いでたくさんの現場を知れたことも大きな学びでした。夜遅くまで制作をして先生たちとご飯を食べたり、警備のおじさんが管理する森林の間伐作業を体験したりと、小規模校ならではの人の距離の近さが印象に残っています。

Q2 「パラボラ舎」の仕事内容や

立ち上げた経緯を教えてください。

和歌山のみかん農園「山虎」のデザイン、オンラインショップの協働など、お店や生産者さんをデザインでサポートする仕事を中心です。卒業後に電機メーカーに勤め、その後デザイン業で独立しました。大阪府四條畷市での地域メディアの編集を経て、現在は出身地の大阪で仕事をしています。就職した大阪は刺激の多い場所でしたが、もう少しゆったりしたリズムで暮らしたいと思い1ターンしました。大分市はコンパクトなので気になる人に会いやすく、一緒に考えながら進めるプロジェクト系の仕事が増えたように思います。

Q3 現在の仕事でやりがいがいい

感じていることを教えてください。

デザインの相談は、ご依頼主が勇気をもって「何か変えたい」といって声をかけてくださいます。でも、会社ではみんなが賛成する場面ばかりではありません。そんな中、ご依頼主の「変える・新しく取り組む決断」に応えられるのができ、会社や団体の雰囲気が変わったときにやりがいを感じることが多いです。納得のいくものができることはもちろんですが、このように最近は少し目線が変わってきました。

Q4 これから芸術大学を目指す受験生にメッセージをお願いします。

学生の頃は気づきませんでしたが、「さまざまな角度から捉えてみる」ことは急にやろうとしても難しいことです。いろいろな作品を見て友達のを聞いて「自分にはない捉え方」に出会うことや、作品を作ることを行きて来て、気づかぬうちに訓練していたのだと思います。免許や技術とは違う、ゆっくりと積っていく学びは貴重な時間だと思います。



「現代アートの宝箱 OPAM利用コレクション」展(広報物デザイン/大分県立美術館/2018)



「虎の子みかん」ブランディング(デザイン・ECサイト運営/山虎農園/2011〜)

大野 俊明

OHNO Toshiaki
客員教授
日本画家
成安造形大学名誉教授
京都日本画家協会会員

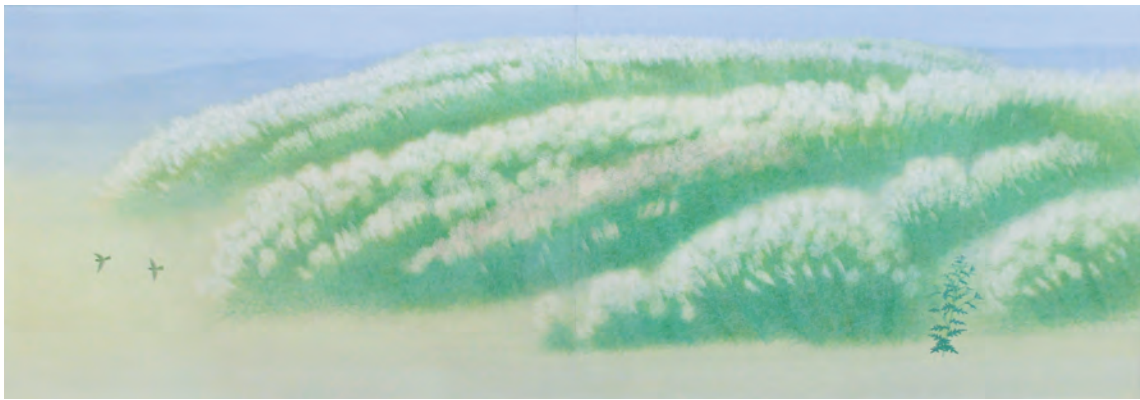
◎略歴
1948年京都市に生まれる。京都市立芸術大学美術学部卒業。1972年に京都・二条城の障壁画模写事業に参加し、現在も約50年にわたって模写に携わっている。1987年の第九回山種美術館賞展優秀賞、1991年のタカシマヤ文化基金第一回新鋭作家奨励賞などを受賞した他、「横の会」の結成に参加。「日本画・京都からの表現NEXT」展でも活躍。障壁画制作としては、1994年完成の安土町「信長の館」天守閣内障壁画の復元も担当。2017年京都市芸術振興賞を受賞。



Q1 画家としていつも気にかけていることがあれば教えてください。
画家として気がかりなのは、良い画材が年々なくなっていくことへの危惧です。日本画を描くために必要な紙や絵の具、あるいは膠(にかわ)等の画材を作るための原材料が減少の一途をたどっています。それは多方面にわたって我々人間が自然環境を良くない方へ向かわせていることが大きく影響しています。美しい自然の風景に感動し、それを作品に描き留めるため、今後何ができるかを絵を通して提案することが創作者の使命なのかもしれません。

Q2 二条城の修復模写はどのようなお仕事ですか？
国室・二条城の二の丸御殿には、徳川家の御用絵師であった狩野探幽を筆頭に当時の狩野一門が描いた貴重な文化財が残されています。ところが400年の歳月を経た障壁画はいたみが甚だしく、貴重な文化財を保存するため、模写をしてはめ替える計画が1972年にはじまりました。総数1000面を超える障壁画を描かれた当初の状態に復元し、順次はめ替えながら、原本を保存する方法で現在も続けられています。私も最初から参加し、48年目に入りました。

Q3 今後アートに関わる仕事を目指す受験生へメッセージをお願いします。
「作ることや描くことが何よりも好き」が一番大事なことです。アートに間違いというものはありません。自分の作りたい、あるいは進みたい方向を深く掘り下げることが大切です。それには、日本画、洋画、立体、デザイン、工芸、ファッションなど掘り下げるための「専門のスキル」が必要です。現代では今までとは全く違う方法で、新たな道を掘り下げている若い人たちがたくさんいます。でも、まず今は、いかなる状況になっても必ず役に立つデッサン力という深く掘るための「力」を身につけてください。



《すずき野》 | 2018年 | 麻紙・岩絵具 | 112×324cm

林 寿美

HAYASHI Sumi
客員教授
インディペンデント・キュレーター

◎略歴
国際基督教大学卒業後、川村記念美術館(現・DIC川村記念美術館)で、ロバート・ライマン、ゲルハルト・リヒター、マーク・ロスコなどの展覧会を企画。2012年に同館を退職後、ヨコハマトリエンナーレ2014、「トラベラー まだ見ぬ地を踏むために」(国立国際美術館)ほか、内外の展覧会やプロジェクトに携わる。2019年には神戸初のアート・プロジェクト「TRANS-」のディレクターを務めた。



Q1 キュレーターやインディペンデント・キュレーターとはどんなお仕事ですか？
展覧会を企画し、実現することが大きな仕事のひとつですが、そのためには、作品や作家の調査を日頃から続け、データを蓄積しておく必要があります。その上で、機会が到来したら展示のコンセプトをまとめ上げるわけです。美術館に所属している場合は、収蔵品の調査や研究、管理も非常に重要な業務になります。美術品は世界共通の遺産ですから、自覚と責任を持って作品に関わり、ひとりでも多くの方々にその素晴らしさを伝えるのが役目です。

Q2 これまで関わった仕事で一番印象に残った仕事を教えてください。
川村記念美術館(現・DIC川村記念美術館)で2004年に開催した「ロバート・ライマン 至福の絵画」展です。1990年代にスイスのシャフハウゼン現代美術館で見たライマン・コレクションの展示に深く感銘を受け、その感動を誰かと共有したいという思いから企画しました。ライマン氏本人も大変穏やかで優しさに溢れる方でしたし、美術館の展示室内で作品の配置と一緒に考えることができたのはまさに至福のひとつでした。

Q3 今後アートに関わる仕事を目指す受験生へメッセージをお願いします。
美術に対する好奇心と情熱を忘れないでください。そして、広い視野と深い洞察力を持ち続けること。もしも道半ばで困難や失敗に遭遇しても、それを乗り越える苦労を楽しめるように。



クレオール・ジュナイダー「美術館の終焉〜12の道行巻」
©2019 TRANS-KOBE実行委員会 Photo: Nobutada Omote



やなぎわ「日輪の翼」神戸公演より「神戸市中央卸売市場本場内特設会場」
©2019 TRANS-KOBE実行委員会 Photo: Nobutada Omote

岡田 修二 OKADA Shuji
教授 / 画家

自宅近くの琵琶湖畔の湿地帯を描いた油彩画「水辺シリーズ」を展開。滋賀県立近代美術館、大原美術館にて大規模な個展を開催。セゾン現代美術館にて2人展。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ客員フェロー。京都市立芸術大学大学院博士(後期)課程修了。



《水辺73》 | 2015年 | キャンバス・油彩 | 174×243cm

宇野 君平 UNO Kumpei
准教授 / 美術家

鉄と向き合うときの身体的な感覚と、鉄を通して見えてくる観念的な世界、その間で表現を探索。近年はブランクトン・花粉・微化石など小さな生命をモデルに巨大な鉄の彫刻に取り組む。筑波大学大学院修士課程芸術研究科デザイン専攻総合造形分野修了。



《リベタネリウム》 | 2018年 | 南相馬市博物館での展示風景

泊 博雅 TOMARI Hiromasa
教授 / メディアアーティスト

アーティスト・グループ「ダムタイプ」で、パフォーマンスやインスタレーション作品を制作。アーティストの立場からメディア表現について探る。共著「メディアアートの教科書」(フィルムアート社)。京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画(造形構想)専攻修士課程修了。



dumb type「Voyages」 | 2002年 | メディア・インスタレーション

高田 学 TAKADA Manabu
准教授 / 日本画家

身近な自然の中に普遍的な造形を探索し、岩絵具を通して表現。京展市長賞・京展賞、創画展奨励賞・春季展賞、京都日本画家協会 奨励賞、滋賀県文化奨励賞など受賞。成安造形大学日本画クラス(現・日本画コース)研究生修了。



《真実の庭》部分 | 2019年 | 麻紙・岩絵具・金箔・黒箔

長尾 浩幸 NAGAO Hiroyuki
教授 / 美術家

絵画、版画制作のほかに写真、映像を組み合わせたインスタレーションを制作。美術館賞と絵画と映像性の関係について研究。美術館、個展などで発表し、自ら展覧会の企画・運営も行う。京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。



《書物の化身-1》 | 2019年 | 麻・アクリル・グラフィット・ステンシル | 26×55cm

馬場 晋作 BABA Shinsaku
准教授 / 美術家

社会や他者との関係で揺らぎ曖昧なものとして現れる個人やその視点に着眼。絵画の方法論から出発しながら様々なメディアを介し作品を展開する。展覧会企画、プロジェクト運営、フィールドワークなど幅広く活動。京都市立芸術大学大学院博士(後期)課程修了。



《文庫と帳簿のフローイング》 | 2018年 | ミクストメディア | サイズ可変 | 撮影:奥村元洋

非常勤講師紹介

井手本 貴子
IDEMOTO Takako
日本画家



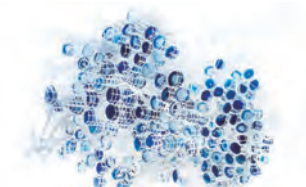
《あの子》部分
2018年 | 麻紙・岩絵具・膠等
33.3×24.2cm

伊庭 靖子
IBA Yasuko
画家



《untitled2017-03》部分
2017年 | キャンバス・油彩
97×130cm

植松 琢磨
UEMATSU Takuma
美術家



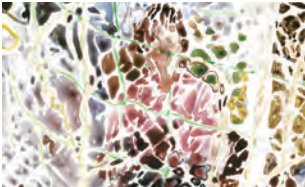
《noosphere-platform》
2014年 | 塩塚石・ケアルタイプ・木

岡本 光博
OKAMOTO Mitsuhiro
美術家



《w#120 トラロープ》
2009年 | 三軒坂での展示

岡本 里栄
OKAMOTO Rie
画家



《ivy》部分
2018年 | ユガ紙・水性アルキド樹脂顔料
41×31.8cm

国谷 隆志
KUNITANI Takashi
彫刻家



《Spaceless Spaces
(Deep Projection)》
2015年 | 息・ガラス・ネオン・変圧器・コード
サイズ可変

小柳 裕
KOYANAGI Yutaka
美術家



《Ambush (Source of Light 15-6)》部分
2015年 | キャンバス・油彩
60.7×72.8cm

澤田 華
SAWADA Hana
美術作家



《遊書針と繭糸》展示風景
「夏のオープン・ラボ」津田雄 360°の注視」
2020年 | 広島市現代美術館
撮影:花田ケイタ

中川 トラヲ
NAKAGAWA Torawo
絵画・現代美術作家



虎玉画廊でのインスタレーションビュー
2014年 | ウッド・ミル・アクリル絵具
サイズ可変

西久松 吉雄
NISHIHISAMATSU Yoshio
日本画家



《吉地蔵》部分
2017年 | 麻紙・岩絵具・金箔
130.3×162cm

林 孝二
HAYASHI Koji
日本画家



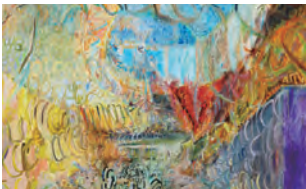
《Landscape》部分
2010年 | 麻紙・アリス箔・墨・焼白線・膠
194×540cm

福田 浩之
FUKUDA Hiroyuki
日本画家



《連巻》
2014年 | 板材・漆・岩絵具
364×273cm

増田 佳江
MASUDA Kae
画家



《裝飾的な言葉》部分
2016年 | キャンバス・油彩
130×162cm

松村 晃泰
MATSUMURA Teruyasu
彫刻家



《la esencia de la vida》
2014年 | 大理石
130×200×90cm

安河内 宏法
YASUKOCHI Hironori
キュレーター



「KYOTO STEAM 2020 国際アート
コンペティション」テーマ「アップ」展の様子
撮影:栗生田良香

森 太三
MORI Taizo
美術家



《転用と配列》 | 2016年
木材・漆料 | Gallery PARCでの展示風景
撮影:栗生田良香

三宅 砂織
MIYAKE Saori
美術作家



「MOTアニュアル2019 Echo after Echo: 伝の岸、新しい影」展示風景
2019年 | 東京芸術大学現代美術館
撮影:栗生田良香